

贗作・真面目が肝心

原作 オスカー・ワイルド
作 関根信一

登場人物

アーネスト(ジャック)	石坂 純
アルジャーノン(アルジー)	とつかおさむ
チャジュブル	中 聡
メリマン	水月アキラ
レイン	長谷川愁斗
ブラックネル卿夫人(オーガスタおばさん)	関根信一
グウェンドレン	エスムラルダ
セシリー	モイラ
プリズム	坂本穂光
マーガレット	木村佐都美
グリズビー	和田好美
サロメ	オバマ

舞台にはイスがいくつか。

*

*

*

*

*

東京、新宿のアーネストの家。
アーネストが登場。出かける支度をしながら。
レインが登場。

レイン

旦那様、お聞きしたいことがあります。

アーネスト

なんだ、レイン、あらたまつて。二人きりの時は旦那様ではなく、アーネストと呼んでいいと言ってるだろう。

レイン

それじゃあ、アーネスト、聞きたいことがあるんだけど。

アーネスト

後にくれないか、今、忙しいんだ。アルジャーノンの家に出かけなくてはいけないんだ。すっかり遅くなつてしまった。

レイン

アーネスト！

アーネスト

後にしてくれ。

レイン、アーネストの手を取って、支度を止めさせる。

レイン

結婚するって本当ですか？

アーネスト

誰からそれを？

レイン

アルジャーノン様からです

アーネスト

余計なことを……

レイン

本当なんですか？

アーネスト

レイン、聞いてくれ、もし仮におれが結婚するとしても、お前と別れたりはない。

レイン

「もし仮に」の話なんですか？ アルジャーノン様はそんなふうには言っていないませんでした。「アーネストは僕のいとこのグエンドレンと結婚するつもりらしい。止めるなら今だ」と。

アーネスト

レイン、頼む、止めないでくれ。これはお互いのため、おれたち二人のためなんだ。お前とは毎週末、この東京の屋敷で会っている、そうやってもう何年になる？ アルジャーノンはおれたちに嫉妬してるんだ。あいつときたらその場限りの相手とくっついては別れるの繰り返し。そこには何も無い。でも、おれたちは違うだろう？

レイン

それはそうですが。それじゃあ、なんで結婚なんかするんですか？

アーネスト

お前だって知ってるだろう。今の日本の法律では、結婚は男と女にしかできないんだから。

レイン

そんなことを聞いてるんじゃない。なぜ結婚するのかを聞きたいんです。

アーネスト

レイン……

どこからか声。

声

わたしも聞きたいわ。

やってきたのはドラァグクイーンのサロメ。豪華な女装をしている。

アーネスト

なんだ、サロメ。どうしてここに？

サロメ

レインからLINEをもらったのよ。一人じゃ丸め込まれそうだからたすけてほしいって。

レイン

ありがとう！

アーネスト

なんでそんなかつこうで？ 誰かに見られたりしてないだろうな。

サロメ

心配ご無用。ここは新宿。アジア最大のゲイタウン新宿二丁目からは目と鼻

の先。私を見たって誰も驚いたりなんかしない。まあ、ちよつと残念だけど。さあ、じっくり聞かせてもらおうかしらね。あんたがグエンドレンとかいう「女性」との結婚を正当化する演説の一部始終を。

間

アーネスト

わかったよ。二人も知ってるだろう。おれが住んでるのは田舎なんだ。東京、ましてや新宿二丁目じゃない。この年まで一人でいるのは肩身が狭いんだ。わかるだろう？ これから先、ラクに生きていくのには、このへんで身を固めておいた方がいいと思うんだ。

サロメ

ラクに生きる。それはあんただけに便利な理屈よね。レインの気持ちはどうなるの？

アーネスト

わかってほしい。心配なんだ。今のままずっといられるのかが。いろいろ考えた結果なんだ。わかってほしい。

サロメ

(レインに) わかった？

レイン

うん、アーネストがそこまで言うなら。でも、もつと早く相談してほしかったかも。

アーネスト

レイン、悪かった。愛してる。

レイン

アーネスト、僕もだ。

サロメ

バカ！ まんまと丸め込まれてるじゃないの。

レイン

でもさ……

サロメ

ちよつとどういふことなの？ 二十一世紀の話とも思えないわ。

アーネスト

たとえ、時が流れて時代が変わっても、変わらないものがあるんだ。

サロメ

それは人間同士の信頼や愛情の話ではなくて。使い方が間違ってる。

アーネスト

わかってほしい。きつとうまくいくんだ。

サロメ

ちよつと待って。アーネスト、あんた結婚する相手には、ちゃんと話すつもり？ 自分がゲイだって。

アーネスト

それは……

サロメ

もしかして、友情結婚のようなものなの？

アーネスト

そのうちに話そうかなとは思ってる。

サロメ

レインのことは？

アーネスト

まあ、そのうちに。たぶん……、なんとか……。

サロメ

はっきりしないわね。じゃあ、聞くけど。レインと別れるわけじゃないのね。

アーネスト

当たり前だろう。そのための結婚なんだから。

レイン

アーネスト、ありがとう！

間

サロメ (ため息) 二人が納得してるなら、私がどうこう言うことでもないわね。イライラするし、腹も立つけど。

アーネスト サロメには関係ないだろう。

サロメ そうね、たしかに関係ない。でも、私たちは結婚なんかしなくても、男同士女同士付き合っていける世の中を望んで、そうなるようがんばってきたんじゃないくて？

アーネスト ……。

サロメ まあ、いいわ。とりあえず、あんたたちみんなの幸せを祈ることにするわ。あんたが結婚するグエンドレンって人の幸せも。

アーネスト ありがとう。じゃあ、行ってくるよ。

サロメ こんな昼間からどちらへお出かけ？ 今日土曜日よ。

アーネスト アルジャーノンのところへ。先週、スマホを忘れてきてしまったんだ。

サロメ 先週？ ずいぶん放っておいたのね。

アーネスト ああ、2台持ちなんでね。別に困らない。じゃあ。

ジャック、出ていく。

サロメ あやしい。スマホ引き取りに行くだけなのに何でスーツ？

レイン アーネスト、私服がださすぎるって、みんなに言われるから、だったら、いつもスーツでいるって。

サロメ なんであんたは一緒に行かないの？

レイン すぐ帰ってくるって。僕は夕飯の支度があるから。サロメも食べてく？ 日もイベントなんでしょ。それまでいてもらってかまわないよ。今

レイン、食事の支度に出て行くこうとする。

サロメ ちょっと待って。ねえ、レイン。あんたもしかして、アーネストが結婚したら、自分は不幸な愛人になるってうっとりしてるんじゃない。テレサ・テンの歌のヒロインになったりしてるんじゃないでしょうね？

レイン そんなことないって。テレサ・テンは好きだけど。

サロメ やっぱり。

レイン サロメだって、ショーでリップシンクしてるじゃん。大好きなんじゃないの？

サロメ それとこれとは話が別よ。

レイン そうなの？

サロメ そうよ、全然別！

* * * * *

アルジャーノンの家。
アーネストがいる。何か食べた後らしい。
アルジャーノンがやってくる。

アルジャーノン アーネスト。忘れ物のスマホだ。

アーネスト ありがとう。

アルジャーノン あれ、ここにあった羊羹はどうした？ 朝早くから並んで買った吉祥寺の小さな羊羹は？

アーネスト 悪いが、お先にいただいた。さすがにうまいな。

アルジャーノン 全部か？ 羊羹一棹全部食ったのか？

アーネスト ああ、いい羊羹は胃もたれしない。さすが名店だ。

アルジャーノン 糖尿になっても知らないぞ。オーガスタおばさんの好物を用意しておいたのに。

アーネスト オーガスタおばさんというのは、ブラックネル夫人、グェンドレンの母親のことか。

アルジャーノン ああ、そうだよ。アーネスト、きみは、グェンドレンに会うためにわざわざ今日来たのか？

アーネスト まさか？

アルジャーノン いや、きつとそうだ。そうに違いない。オーガスタおばさんがグェンドレンと一緒に土曜の午後に来る、気が重いと話したからな。

アーネスト まあ、いいじゃないか。せっかく来たんだから。ゆっくりさせてもらおうよ。話したいことがあるからな。

アーネスト、腰を下ろしてしまふ。

アルジャーノン なんだあらたまつて？

アーネスト なんて、結婚のことをレインに話した？ おかげでサロメにまで伝わってさ。んざんな目にあつた。

アルジャーノン 世の中の不正には目をつぶっていられないんでね。

アーネスト きみがそんなやつだとは知らなかった。おれたちは仲間、同類なんじゃないのか？

アルジャーノン 僕は君のような人間とは違う。

アーネスト どういうことだ。ぼくはグェンドレンを愛してる。今日はプロポーズに来た。

アルジャーノン 白状したな。だが、グェンドレンとは結婚できない。

ジャック なぜだ？

アルジャーノン 従姉妹が不幸になるのを見ていられるものか。

ジャック そんなことはない。おれは彼女の幸せを一番に考えている。

アルジャーノン 一番は自分の幸せじゃないのか？

ジャック じゃあ、二番だ。それだつてたいしたもんだらう。

アルジャーノン そんなに結婚したいなら、セシリーとの中を清算しろ。

ジャック 何の話だかわからないなあ。セシリーなんて名前の人は知らないよ。

アルジャーノン じゃあ、聞くが、このスマホは間違いなく君のものなんだな。

アーネスト ああ、そうだ。返してくれ。

アルジャーノン それじゃ、このスマホの刻印はなんだ。「小さなセシリーより、ジャックおじ様へ」。誰なんだ、この小さなセシリーというのは？

アーネスト セシリーは、僕の叔母だ。

アルジャーノン 叔母？

アーネスト 田舎に暮らす小柄なおばあちゃんなんだよ。

アルジャーノン でも、なんで君のことをおじ様なんて呼ぶんだ。「小さなセシリーより、ジャックおじ様へ」。おばさんの背が低いのはわかった。でも、自分の甥をおじ様と呼ぶのは意味がわからない。それに君はアーネストだらう。

アーネスト そうじゃない。僕はジャックだ。

短い間

アルジャーノン ちよつと待て。君はアーネストと名乗った。みんなもそう呼んでる。偽名を使っていたのか？

アーネスト 偽名だなんて人聞きが悪いな。呼び名だ。遊び仲間にはいちいち本当の名前を言う必要もない。おれだけがそうしてるわけじゃない。二丁目じゃみんなやってるだらう。カズとかマサとかタカシとか……

アルジャーノン 開き直ったな。

アーネスト 街ではアーネスト、田舎ではジャック。これは田舎でもらったんだ。返してくれ。

以下、アーネストのことはジャックと表記。

アルジャーノン ジャック、やつぱりきみは君はバンベリーの常習犯だな。

ジャック バンベリー？ なんだそれは？

アルジャーノン 知らないのか？ 日本最大のゲイの社交場、ハッテン場チェーンの名前だ。知らないとは言わせないぞ。「ハッテンする」という言葉にはもう新鮮味がない。仲間内の言葉がいつの間にか世間に広まってしまったからな。「カミングアウト」って言葉のようにね。だから、僕は「バンベリー」という言葉

を使うことにした。「バンベリーする」。どうだい、君も使ってみたら？

ジャック 悪いが、おれはその手の場所には出入りしない。

アルジャーノン じゃあ、僕と会ったのは？

ジャック あそこはハッテン場じゃない。クラブだ。ゲイナイトだ。

アルジャーノン なんだ、君はあの手の場所に通り慣れてる名うてのバンベリストだとばかり思っていた。

ジャック アルジャーノン、君にそんなふう言われるとは心外だな。今の言葉、そっくりそのままお返しするよ。それから、そのスマホも返してくれ。

アルジャーノン 返してやってもいいが、その前に君が名前を使い分ける理由を聞かせてもらおうか。

ジャック 君は名前を使い分けられないのか？ だいたいアルジャーノンというのは本当の名前なのか？

アルジャーノン ああ、もちろん。僕は正々堂々、本名を名乗ってる。

ジャック ちつとも偉くないからな。

アルジャーノン 東京ではアーネスト、田舎ではジャック。そして、小さなセシリー。さあ、話してくれたっていいだろう。僕は決して他言はしない。

ジャック いやだ。

アルジャーノン じゃあ、これからやってくるオーガスタおばさんに君のことを洗いざらい話してしまおう。僕が君について知っているすべてを。当然、グェンドレンとの結婚話も消えてなくなるな。

ジャック わかった、話すよ。話せばいいんだろう。

問

ジャック 僕は田舎で手広く事業をしてる。僕の養父トーマス・カーデューという人が、孫のセシリーの後見人に僕を選任したんだ。両親のいないセシリーは、僕をおじ様と慕ってくれている。彼女は十八歳。僕の田舎の家でプリズムさんという家庭教師が世話をしている。

アルジャーノン 田舎の屋敷はどこにあるんだ？

ジャック どこだっていいだろう。田舎は息苦しい。SNSを使ったって同類とはなかなか出会えない。東京に出るのも簡単じゃない。何しろ後見人だからな。ゲイだということがわかったら、今の立場も危うくなるかもしれない。そこでおれはアーネストと言う名の弟を作り上げた。

アルジャーノン 弟だって？

ジャック ああ。東京に暮らす手に負えない道楽者。いい年をして演劇なんかをやっている弟、アーネスト。これが真相だ。

アルジャーノン なんだそれは、ただアーネストと名乗ってるだけじゃないのか？

ジャック ああ。これですべてうまくいっている。

アルジャーノン ……よく考えたな。

ジャック だろ！

アルジャーノン だが、僕だって負けてない。

ジャック どういうことだ？ 君は東京の出身じゃないのか？

アルジャーノン 君はアーネストと言う名前の弟を作り上げた。いつでも東京に出かけられるように。

ジャック ああ。

アルジャーノン オーガスタおばさんは何かと僕を頼ってくる。おまけに早く結婚しろとうるさい。そこで僕はバンベリーと言う名前の病弱な友人を作った。好きなときに遊びに行けるようにね。

ジャック ハッテン場の名前からとったのか？

アルジャーノン ああ、そのとおり。バンベリーの存在は便利だ。彼の体調が悪いおかげで、僕は君と二丁目に出かけることもできる。

ジャック おれたちは同類ってことだな。

アルジャーノン どうやらそうらしい。

ジャック じゃあ、賛成してくれるんだな。グェンドレンとの結婚を。

アルジャーノン 賛成はしないが邪魔はしないってことでどうだ？

ジャック それでいい。感謝するよ。

玄関のチャイムの音。何度も。

アルジャーノン オーガスタおばさんだ。あの鳴らし方は。

ジャック このあいだいた使用人兼恋人の若い子はどうしたんだ？

アルジャーノン 出て行った。

ジャック 捨てられたのか？

アルジャーノン そうじゃない、別れたんだ。

玄関のチャイムの音。

アルジャーノン、行くこととする。

ジャック グェンドレンと二人だけの時間をつくってくれないか。

アルジャーノン ええ？

玄関のチャイム、うるさく鳴る。

ジャック わかったよ。じゃあ、なんとかする。

アルジャーノン、退場。

すぐに戻ってくる。
オーガスタおばさんことブラックネル卿夫人、グェンドレンと一緒にやってくる。

ブラックネル

あら、あなたはたしかアーネストさんだったかしら。ごきげんよう。

ジャック

ブラックネル夫人、ごきげんよう。お邪魔しています。

アルジャーノン

グウェンドレン、今日はなんて美しいんだ。

グェンドレン

「今日は」じゃなくていつもでしょ。ねえ、アーネスト様？

ジャック

もちろんだとも。グェンドレン、あなたはいつも美しい。百点満点の美しさだ。

グェンドレン

まあ、それは困るわ。それでは発展の余地がありませんもの。

ジャック

ハッテン？

グェンドレン

ええ、私いろいろな面で発展したいと思つてますの。

ブラックネル

(イスに腰を下ろして) グウェンドレン、こちらに座りなさい。

グェンドレン

お母様、私はここでいいわ。

ブラックネル

待たせたわね、アルジャーノン。こちらに来る前、バーバリー夫人にお会いしてたの。ご主人が亡くなってから一度も顔を見ていなくて。どれだけ哀しみに沈んでいるかと思つたら、20歳は若返つて見えたわ。髪もきれいにカラーリングして。自由を満喫しているかんじ。わからないものね。ところで、お願いしていた小ぎさの羊羹は？ 早朝から並んで買つて来てくれたのよね。それなんです、目の前で売り切れてしまつて。二度チャレンジしたんですが。かわりに銀座の空也で最中をと思つたのですが、それも売り切れで。

アルジャーノン

ブラックネル

かまいませんよ。バーバリー夫人のところまで浅草亀十のどら焼きをいただいたから。夕食を楽しみにしましょう。

アルジャーノン

実はおば様、今日は夕食をご一緒できないんです。

ブラックネル

まあ、どうして？

アルジャーノン

友人のバンベリーの病状が悪化したと先ほどHUBが有りました。身寄りのない不幸な男なんです。僕が看病をしてやらなくては。

ブラックネル

では、私からの頼みをバンベリーさんに伝えておいて。来週の土曜だけは倒れないようにと。社交シーズン最後のパーティーだから、あなたにはぜひ来てほしいの。あなたの機知に富んだおしゃべりがぜひとも必要なの。もともと少ない話題が種切れになってしまつていたのでね。それから音楽も。どんな曲を流せばいいか相談に乗つてちょうだい。

アルジャーノン

バンベリーの意識があれば伝えます。来週の土曜までには回復するはずですから。でも、選曲というのは難しい。では隣の部屋でお聞かせしましょう。僕の音楽スタジオ、リスニングルームなんです。

ブラックネル

ありがとう。ぜひお願い。きっと最高の選曲になるわ。

アルジャーノンとブラックネル卿夫人出て行く。
アルジャーノンは、ジャックにめくばせ。

ジャック 今日はいいい天気ですね。

グエンドレン アーネスト様、お天気の話はやめて。遠回しな会話は却って緊張してしまいますもの。単刀直入にどうぞ。なんでもおっしゃって。

ジャック そうですね。お母様も席を立たれたことだし。

グエンドレン 今のうちですわ。母はいきなり戻ってきて話を聞く癖があるんですから。

ジャック わかりました。グエンドレン、初めて会った時から、あなたを愛しています。誰よりも。

グエンドレン それは存じていました。私もあなたの魅力に引き寄せられていることは否定できません。それどころか、出会う前から夢中でしたのよ。

ジャック まさか、僕を愛していると？

グエンドレン 猛烈に。

ジャック グウエンドレン！なんて幸せなんだ！

グエンドレン 私の愛するアーネスト。

ジャック グエンドレン！（ふと気付いて）出会う前から？

グエンドレン ええ。

ジャック 出会う前から？

グエンドレン アーネスト様、私は理想を追求して生きていきたいと考えています。私の理想はアーネストという名の方を愛すること。

ジャック なぜ？

グエンドレン だってすてきじゃありません？（うっとり宙を見つめて）アーネスト……真剣、誠実、熱心、真面目。これ以上信頼できる名前がありません。アルジャーにアーネストというお友達がいると聞いた時、私は感じたのです。運命を！

問

ジャック それは、アーネストじゃなきゃ愛せないってことじゃないですか？

グエンドレン だって、あなた、アーネストでしょ？

ジャック そうですけど。もし僕が違う名前だとしたら愛せないということですか？

グエンドレン ずいぶんと形而上学的な考察をなさるのね。そんな小難しいことは現実の生活には無用よ。

ジャック 僕はアーネストという名にこだわりはないし、ちよっと似合わない気がするんですよ。

グエンドレン アーネスト、これ以上あなたにぴったりの名前はないわ。独特の響きがあっ

で、聞くだけで体が震えちゃう。

ジャック
でも、世の中にはもつと良い名前が山ほどある。そうだな。ジャックなんてどうです？ ジャック。

グエンドレン
全然だめ。私にはちっとも響かない名前だわ。何人か知ってるけど、みんなぱっとしない、頼りない男ばかりなの。ジャックなんて名前の男と結婚した女性には同情してしまいますわ。だって、安心できる名前はアーネストだけだから。

ジャック
よし、すぐになんとかしよう。というか、今すぐ結婚を！

グエンドレン
結婚ですって？

ジャック
そうです。僕はあなたを愛してるし、あなたも僕を愛してる。

グエンドレン
でも、プロポーズがまだよ。

ジャック
では、今しましょう。今、ここで。

グエンドレン
まあ、うれしい。でも、がっかりさせてはお気の毒だから、あらかじめお伝えしておきますけど……お受けするつもりです。

ジャック
ちよつと待ってください。グウエンドレン！

グエンドレン
ごめんなさい。私ったら……、グエンドレン、落ち着くのよ。落ち着かないきや……

ジャック
(ひざまづいて)グウエンドレン、結婚しよう。

グエンドレン
もちろんよ。やつと聞けたわ。アーネスト様は、プロポーズに慣れてないのね。

ジャック
ええ、これが初めてのプロポーズなものですから。

グエンドレン
男の方は練習でプロポーズするものではなくて？ みんなそう言っているわ。

ジャック
……。

グエンドレン
(ジャックを見つめて)あなたの目は本当にきれい。透き通るよう。いつもいつまでも私を見つめていてほしい。

ジャック
グエンドレン……

ブラックネル卿夫人、登場。

ブラックネル
(二人を見て)まあ、なんてはしたない！

グエンドレン
お母様、お願い、まだ入ってこないで。アーネスト様とお話の途中なの。

ブラックネル
何の話なのか聞かせてもらおうわ。

グエンドレン
私、アーネスト様と婚約したの！

ブラックネル
グエンドレン、勝手なことほさせません。婚約については、私か、体調が許せばお父様が決めることです。婚約の楽しみは、意外性にあるのよ。喜んだり、がっかりしたり。それを自分で決めるなどもつてのほかです。

グエンドレン
でも、決めてしまったんですもの。

ブラックネル
これからアーネスト様に、いくつか質問があります。グウェンドレンは、車で待っていないさい。

グウェンドレン
お母様……

ブラックネル
早く行きなさい。グウェンドレン、車へ。

グウェンドレン
わかったわ。

グウェンドレン、退場。

ブラックネル
アーネスト様、おかけになって。

ジャック
立ったままで結構です。

ブラックネル
あなたはグウェンドレンの花婿候補の名簿に載っていません。今、バーバリー夫人に協力いただいて、花婿を選定していますの。これからいくつか質問します。返事次第でお名前を書き入れて差し上げます。まず初めに、タバコは？

ジャック
はい、吸います。

ブラックネル
いいわね。健康より気晴らしを大事にする心意気、嫌いじゃありません。では次。私の考えでは、男性は全てを知ってからか、または何も知らない無知なうちに結婚すべきだと思いますの。あなたはどちら？

ジャック
無知です。

ブラックネル
安心しました。生まれながらの無知に手を加えるのよくありません。無知は高級な果物と同じで、手で触れると傷んでしまいます。現代の教育の方法は間違っていると思えません。年収は？

ジャック
ほんの一億ほど。他に証券があります。

ブラックネル
賢明ですわ。土地は生きている間、税金を取られ、死んだら死んだで相続税。利益にも楽しみにもなりません。

ジャック
田舎に土地付きの屋敷を持っています。

ブラックネル
田舎とはどちら？

ジャック
前橋です。

ブラックネル
まえばし？

ジャック
ああ、北関東は群馬県前橋市のはずれです。ご存知なくてもしかたありません。

ブラックネル
部屋数は？

ジャック
たしか20ほど。

ブラックネル
大変結構。東京にお屋敷は？ うちの子のような箱入り娘は、田舎暮らしなぞできません。

ジャック
新宿にマンションを借りています。

ブラックネル
新宿のどちら？

ジャック
最寄駅は地下鉄の新宿御苑前です。

ブラックネル
それは、もしかして、新宿二丁目とかいうところではなくて？　あまり品行方正とはいえない街ではありませんこと？

ジャック
そんなことはありません。靖国通りをはさんだ向こうの歌舞伎町とは違います。静かなくらしやすい街ですよ。

ブラックネル
些細な質問だけれど、ご両親はご健在？

ジャック
両親とも亡くしました。

ブラックネル
片親をなくすのはしかたありませんが、両親ともなくすなんて軽率です。お父様はどんな方でしたの？

ジャック
……実は知らないのです。なくしたと言いましたが、両親が僕を失くしたというのが本当なのです。実を言うと私は生みの親を知りません。僕は拾われたのです。

ブラックネル
拾われた？

ジャック
拾ったのは今は亡きトーマス・カーデュー氏です。心優しい彼が私を拾ってくれたのです。その時、彼のポケットに入っていた切符の行き先が僕の苗字になりました。神奈川の小田原行きの切符でした。

ブラックネル
それでは、あなたの名字は……

ジャック
小田原です。つまり私の名は、アーネスト・小田原。

ブラックネル
では、小田原様、その小田原行きの切符を持った紳士はあなたをどこで見つけたの？

ジャック
カバンの中です。

ブラックネル
カバンの中？

ジャック
はい、カバンの中です。かなり大きめで、色は黒。平凡なものです。

ブラックネル
その何の変哲もないカバンをカーデュー氏とやらはどこで見つけたのですか？

ジャック
新宿駅で荷物を取り違えたのです。

ブラックネル
新宿駅の荷物預かり所？

ジャック
はい、小田急線です。

ブラックネル
小田急線。

ジャック
正確に言えば、小田急小田原線です。

ブラックネル
何線でも構いません。小田原様、正直に言って、今のお話に当惑しています。生まれ育ったのがカバンの中だったなんて。かなり大きめだとしても、通常の家庭のしきたりを侮辱するものです。

ジャック
では僕はどうすれば？　グウェンドレンのためなら何でもします。

ブラックネル
では助言を差し上げるわ。どなたか血縁者を探し出さない。ご両親のどちらかに会わせていただくわ。社交シーズンが終わるまでに。

ジャック
それは無理です。カバンならお見せできます。保管してあるのです。どうかそれでお許しください。

ブラックネル
許すですって？ ご冗談でしょう。主人と私が手塩にかけて育てあげた娘を、こともあろうに手荷物と結婚させるなんて、そんなことができると思っ
ますの？ 失礼しますわ。

ブラックネル卿夫人、退場。
となりの部屋から結婚行進曲が聞こえてくる。

ジャック
アルジャーノン、そんな曲は弾くな。

ピアノが止まって、アルジャーノンがやってくる。

アルジャーノン
プロポーズはうまくいったのかい？

ジャック
グエンドレンは、問題ない。出会う前から僕に好意を寄せてくれていた
そう
だ。

アルジャーノン
出会う前から？ どういうことだ？

ジャック
そんなことより、問題はブラックネル夫人、グエンドレンの母親だ。アル
ジャーノン、グエンドレンもあの母親のようになるんだろうか？

アルジャーノン
どんな女性も母親に似る。例外なくね。

ジャック
(ため息) ああ……

アルジャーノン
やめるなら今だぞ。結婚なんてあきらめろ。

ジャック
いや、やめない。あきらめてたまるか。

アルジャーノン
グエンドレンには話したのか、君に名前が二つあることを。

ジャック
話してない。

アルジャーノン
面倒なことになるんじゃないか。

ジャック
今週中にアーネストを葬り去る。なんとしても。(思いついて) そうだ。
弟のアーネストは死んだことにしよう。コロナかインフルエンザで。まずは
それからだ。

アルジャーノン
小さなセシリーが悲しむんじゃないか？

ジャック
だいじょうぶ。一度も会ったことないんだからな。

アルジャーノン
セシリーは、どんな子なんだい。

ジャック
頭脳明晰、眉目秀麗、後見人のおれが言うのもなんだが、どこに出しても恥
ずかしくない素晴らしい少女に育った。

アルジャーノン
会ってみたい。今度、田舎に帰るとき連れていってくれ。

ジャック
会わせてたまるか。俺のことをあることないこと話すに決まってる。

アルジャーノン
アーネストは死んだんだから別に構わないだろう。

ジャック
とにかく、だめだ。それに聞いたぞ、アルジャーノン、二丁目の飲み屋のつ
けがたまって、逃げ回ってるそうじゃないか。

アルジャーノン
金がないわけじゃない。そのうち払うと言ってるんだが、しつこいんだ。
ジャック
だったらさっさと払えばいいだろう。

アルジャーノン
金があるからってすぐに払うのは、僕の主義に反する。
ジャック
なんだそれは？

アルジャーノン
ところで、グエンドレンにはセシリーのことを話したのか？

ジャック
そのうち紹介するつもりだ。

アルジャーノン
また、そのうちか。だいじょうぶなのか？

ジャック
ああ、きつとうまくいく！

グエンドレンがやってくる。

グエンドレン
アーネスト様に折り入って話があるの。

アルジャーノン
それじゃ僕は失礼しよう。

ジャック
ああ。じゃあ、また。

アルジャーノン、出て行くふりをして、こっそり様子をうかがっている。

グエンドレン
どうしましょう。私たちの結婚、母は許してくれないの。いくら頼んでもだ
めだって。ああ……

ジャック
グエンドレン……

グエンドレン
アーネスト、あなたの生い立ちについて母から聞きました。なんてロマン
チックなんでしょう。母はありえないって言うけど、私の心は強く揺り動か
されました。だから、こうして伝えに来たわ。アーネスト、あなたの名前が
私の心を熱くする。困難があればあるほど、あなたへの愛は激しく燃え上
がるんだわ。

ジャック
グエンドレン……

グエンドレン
あなたの田舎のご住所を教えてくださいませんか？

ジャック
「二台の交換をしましょう。」

グエンドレン
ごめんなさい。スマホを母に取り上げられてしまったの。あなたと連絡がと
れないようにと。

ジャック
なんてことだ。

グエンドレン
手紙を書きます。私のあなたへの思いを毎日つぶつぶってお送りしますわ。ご住
所を。

ジャック
わかりました。えーと、群馬県前橋市……

グエンドレン
群馬県前橋市……郵便はちゃんと届くかしら？
ジャック
だいじょうぶ！

アルジャーノン、スマホを差し出して、二人の会話を録音している。
グエンドレン、退場。ジャックも出て行く。
アルジャーノン、二人を見送って大きくうなずいて退場。

* * * *

場面は、群馬県前橋市のジャックの屋敷。その庭。
ベンチに家庭教師のミス・プリズムが座っている。
セシリーがやってくる。

プリズム
セシリー！ 遅刻ですよ。

セシリー
ごめんなさい。プリズム先生。

プリズム
こちらへいらっしゃい。では、始めますよ。まずは昨日の宿題から。テスト
をします。

セシリー
はい。

プリズム、上毛かるたをとり出し、読み始める。

プリズム
（朗々と）「つる舞う形の……」

セシリー
はい！「群馬県」。

プリズム
正解。

セシリー
簡単だわ。

プリズム
では次。（朗々と）「伊香保温泉……」

セシリー
はい！「日本の名湯」。

プリズム
……正解。では、（朗々と）「日本で最初の……」

セシリー
ええ、なんだったかしら……？ えーと、えーと……

プリズム
ぶーっ！ 時間切れ。（朗々と）「日本で最初の、富岡製糸」。

セシリー
ああ、そうだった。うっかりしていたわ。

プリズム
セシリー、油断してはいけませんよ。日々の鍛練を怠っては、立派なレディ
にはなれないんですから。

セシリー
わかりました、プリズム先生。

プリズム
では、次はドイツ語。

セシリー
先生、上毛カルタはいいとして、なぜドイツ語ですの。私、ドイツ語はきら
いだわ。私には似合わないと思うの。

プリズム
おじ様に自分を磨けと言われていられるでしょう。あなたはとても優秀。他のこ

とは全部やってしまつて、あとは上毛カルタとドイツ語なんですから。東京に出かける前には必ず言われるでしょう。ドイツ語をがんばるようにと。では、昨日の続き、名詞の性について、ジェンダーを学びましょう。

ジャックおじ様は真面目すぎるわ。病気なんじゃないかしら、真面目っていう病気。

プリズム
なんてことを言うんです。旦那様は健康ですよ。まだ若いのに品行方正で本当にご立派。あれほど責任感の強い方はいません。

セシリー
私たちと一緒にだとなんだか退屈そう。

プリズム
お気の毒な弟さんのことで、心配の種がつきないのでしよう。

セシリー
気の毒なアーネスト。たまにはこの家と呼ばばいいのに。

プリズム
では、ドイツ語を始めますよ。まずは中性名詞から。縮小辞で終わる名詞は全て中性名詞です。「お嬢さん」Fräulein（フロイライン）や「少女」Mädchen（メツヒェン）という単語も中性名詞です。ものの見た目は関係ありません。いいですか。見た目や意味からジェンダーを読み取ろうとしても無駄です。

セシリー、スマホに何かを入力している。

プリズム、スマホを取り上げて見る。

セシリー
あっ！

プリズム
授業のノートを取っていると思つたらなんてこと。授業中に日記を書くのはやめなさいと何度も言っているでしょう。

セシリー
私の日記、バズってるんですよ。（取り戻して）ほら。

プリズム
まあ、2万ビュー！ とにかく、授業中は禁止です。

セシリー
はい。

プリズム
なぜ日記なんてつけるのです？

セシリー
それは人生を書き残しておくためだわ。

プリズム
記憶に残せば日記など必要ありません。

セシリー
みんなの記憶に残るのは実際にはなかったことばかり。私の日記がバズってるのは、近ごろはやりの小説なんかよりずっとおもしろいからだわ。

プリズム
小説をばかにするものではありません。私も若い頃、よく書いたものだわ。

セシリー
まあ、先生が？ まさか、ハッピーエンドではないわよね。

プリズム
私が書いた小説は、シリーズものの二次創作BL「ポリー・ハッター」。

セシリー
出版はされました？

プリズム
残念なことに原稿を処分されてしまつて……

セシリー
原作者に怒られたの？

プリズム
いいえ、そうではなくて、紛失してしまったの。さあ、勉強を再開しましよ

う。

セシリー　ええー、もつと聞きたいわ。

チャジュブルがやってくる。

チャジュブル　ごきげんよう、セシリー、プリズム先生。

セシリー　ごきげんよう、チャジュブルご住職。

プリズム　チャジュブル先生、お会いできてうれしいわ。

チャジュブル　プリズム先生はお元気そうだ。

セシリー　先生は頭痛がするとおっしゃっていました。ドイツ語どころではありませんわ。

プリズム　頭痛なんかしていません。

チャジュブル　私が先生の生徒なら、ドイツ語を口移しで教わりたい。

プリズム　まあ……

チャジュブル　いや、たとえ話ですよ。旦那様はまだ東京に？

プリズム　お戻りになるのは月曜の午後です。

チャジュブル　毎週毎週ご苦勞なことだ。ご自分の遊びのためではなく、道楽者の弟の面倒を見るためにお出かけになる。セシリー、お留守の間、勉強をしっかりとこなしてはいけませんぞ。

セシリー　勉強なんていやだわ。ドイツ語も上毛カルタもだいきらい。

セシリー、行ってしまっつ。

プリズム　セシリー……。まあ、近ごろの若い子と来たら……

チャジュブル　二人きりになってしまいましたな。

プリズム　チャジュブル先生はずっとお一人ですの？　今はお寺のご住職ですけれど、以前は法律関係のお仕事をされていたとか。魅力的な方の独身主義は周囲の女性を困らせますわ。

チャジュブル　まさか、そんなことは……、そうですか？

プリズム　そうですね。

チャジュブル　男は結婚してこそ魅力的だとばかり思っていました。女性はそう言うではありませんか？

プリズム　それはその女性が知的に成熟していないからですわ。成熟して食べごろな女性はそのようなことは言いませんわ。少なくとも私は。

チャジュブル　プリズム先生……

プリズム　いやだわ。今の表現は果物にたとえた比喻ですの。比喻です！

チャジュブル　どうです、少し散歩などいかがですか？　果物の話をもつとうかがいたいも

のです。

プリズム
ええ、よろこんで。女は果物、男はけだもの……。いやだわ、私ったらつい……比喩ですわ！ 比喩！

プリズム逃げるように退場。

チャジュブル
プリズムさん……

チャジュブル、プリズムを追って退場。

セシリー、登場。ベンチに座って、日記を書いている。
メリマン、登場。

メリマン
アーネスト様が到着されました。

セシリー
アーネスト？ おじ様の弟ね。おじ様は東京だと伝えた？

メリマン
はい、残念そうなお様子でした。それでも、お嬢様にお目にかかりたいとのこと。

セシリー
わかった、こちらにお通しして。

メリマン、退場。

セシリー
どんな不良かしら？ ドキドキする！

メリマン、セシリー退場。

アルジャーノンがアーネストとしやってくる。

セシリー
普通……

アルジャーノン
君が小さなセシリーだね。

セシリー
私は小さくないわ。そういう言い方やめてくださる。あなたはジャックおじ様の弟のアーネストね。悪名高い。

アルジャーノン
悪名高いなんて心外だな。確かに迷惑をかけたこともある。少しは悪いこともしてきた。

セシリー
威張ることではないわ。「俺も昔は悪かったんだ」って言う人にかぎって、人畜無害の口だけ人間なんだから。

アルジャーノン
君はおもしろい子だな。

セシリー
子ども扱いはやめてちょうだい。おじ様は月曜の午後まで留守よ。

アルジャーノン
それは残念だ。僕は月曜の朝一番で帰る。東京で新しい舞台のオーディションがあるんだ。

セシリー
俳優ってお仕事も大変なのね。応援するわ。がんば！

アルジャーノン ありがとう。

間

アルジャーノン 帰りたくなくなった。オーデイションなんかどうでもいい。

セシリー だめよ、あきらめちゃ。

アルジャーノン 自分の気持ちが変わらない。どうしたというんだ。

セシリー アーネスト、だいじょうぶ？ 顔色が悪いわ。

アルジャーノン ああ、きっと空腹のせいだ。

セシリー だったら、食事を用意させるわ。

アルジャーノン ありがとう。少し良くなった。

セシリー 田舎でゆっくり休んでいくといいわ。新しい人生へ踏み出すには、休息と

栄養が大事なんですよ。

アルジャーノン 君はなんでも知ってるんだね。

セシリー さあ、いらして。

セシリー、アルジャーノン、退場。

場面が変わると、ジャックがやってくる。

迎えるプリズムとチャジュブル。

プリズム 旦那様、お帰りなさいませ。

チャジュブル 喪服をお召しですが、どなたか亡くなったのですか？

ジャック 弟が？

プリズム また借金を？

ジャック 死んだ。

チャジュブル 弟さんが亡くなった。

ジャック はい、アーネストは死にました。

プリズム これで目が覚めたでしょう。

チャジュブル 亡くなったのなら目が覚めることはありませんまい。お悔やみを申し上げます。

南無阿弥陀仏。

ジャック 欠点だらけの弟でしたが、いなくなると悲しいものです。

チャジュブル お察しします。臨終に立ち会いは？

ジャック ええ、私の腕の中で息を引き取りました。思い出しても泣けてくる。

チャジュブル それで死因は？

ジャック 悪性の風邪ではないかと。いずれにせよ、日ごろの不品行のせいです。

プリズム 自分でまいた種ですわ。

チャジュブル 言い過ぎですよ。私だって明日は我が身です。埋葬はこちらで？

ジャック 散骨してほしいとの遺言で遺骨は東京湾に蒔いてきました。これで弟はこの世からすっかり姿を消してしまったことになりました。ああ……

プリズム お悔やみ申し上げますわ。

セシリーがやってくる。

セシリー ジャックおじ様、お帰りになったのね。まあ、陰気くさいかつこう。すぐに着替えてらして。

プリズム セシリー……

チャジュブル こらこら……

セシリー 驚く話があるわ。食堂にお客様なの。なんと弟さんよ。

ジャック は？

セシリー おじ様の弟のアーネスト。30分前に来たの。

ジャック 僕に弟などいない。

セシリー 冗談はよして。どんなに苦勞をかけたとしても、弟には変わりないでしょ。兄弟の縁は切れないもの。すぐに呼んでくるから、弟さんの顔を見たら握手なさってね。

チャジュブル これはなんと！ めでたい知らせですな。

プリズム 死んだはずが生きていたなんて。重ねてお悔やみ申し上げますわ。

アルジャーノンがやってくる。

アルジャーノン ごめんよ、兄さん。一言あやまりたくて、詫びを言いたくて東京から来たんだ。迷惑をかけて済まなかった。これからは改心するよ。

手を差し出して握手しようとする。ジャックは拒む。

セシリー おじ様、弟さんの握手を拒むの？

ジャック 恥知らずとは握手できない、本人もわかっているはずだ。

アルジャーノン 兄さん！

セシリー 握手をして。誰にでも良いところはあるわ。今、病弱なお友達、バンベリーさんの話を聞いていたところよ。

ジャック そんな話をしたのか。くだらない話は禁ずる。

アルジャーノン 兄さん、確かに悪いのは僕だ。でも、そんなに冷たくされたら、胸が張り裂けそうだ。せつかく来たのに。

セシリー
握手をしないなら、おじ様を一生許さないわ。
ジャック
許さない？
セシリー
そうよ。絶対に許さない。
ジャック
わかったよ。

握手する二人。
アルジャーノン、ジャックに抱きつく。
離れようともがくジャック。

チャジュブル
後は兄弟二人にして差し上げよう。
プリズム
セシリー、いらつしやい。
セシリー
はい、プリズム先生。

チャジュブル、プリズム、セシリー、退場。
抱きあったままの二人、ようやく離れる。
ジャック、怒っている。

ジャック
アルジー、すぐに帰れ、ここでバンベリーをするな。メリマン！
メリマン、登場。

ジャック
ハイヤーを呼んでくれ、こちらは急用で東京に帰らなくてはいけないそうだ。
メリマン
かしこまりました。

メリマン、退場。

アルジャーノン
嘘つきめ、急用なんてない。
ジャック
うそつきはどっちだ！
アルジャーノン
辛気臭い格好だな、早く着替えたらどうだ。僕の1週間の滞在中、喪に服し続ける気か？
ジャック
1週間も滞在するなんて許さない。すぐに帰れ。

メリマン、登場。

メリマン
旦那様。
ジャック
ハイヤーが来たのか？
メリマン
いえ、旦那様にお客様です。
ジャック
誰だ？

メリマン
それがなんというかとても派手な方と、とても地味な方と……
ジャック
二人いるのか？ まあ、いい通せ。
メリマン
かしこまりました。

メリマン、行こうとすると、サロメとレインがやってくる。

サロメ
ご案内いただく前に失礼。かまわないわね。

レイン
アーネスト、ごめん。来ちゃった。

ジャック
なんでだ？ レインにサロメまで……

サロメ
アルジャーノンに聞いたのよ、こちらの住所。

ジャック
余計なことを……

アルジャーノン
二人とも遅かったじゃないか。

サロメ
ごめんなさいね。

レイン
前橋の駅で地元の人にサロメが取り囲まれて。

ジャック
なんだ、警察沙汰か？

レイン
ううん、みんなで写真撮ったり、楽しかったね。

サロメ
北関東の地にクイアカルチャーを広めたわね。私は地上に舞い降りたエバン
ジェリストと行ったところかしら。

レイン
かつこいい！

ジャック
なんてことだ……

サロメ
すてきなお屋敷ね。心置きなくゆつくりさせてもらおうわ。

ジャック
断る！

サロメ
冗談よ。そこまで不作法じゃないわ。アルジャーノンがイカホモ温泉、あら
ごめんなさい、伊香保温泉でバンベリーするっていうんで、ちよつくら寄っ
てみただけだから。

ジャック
なんだそうだったのか。じゃあ、みんなすぐに帰ってくれ。

アルジャーノン
僕は帰らない。もうしばらくここにいます。

サロメ
どうしたの？ まさかここでバンベリー？

アルジャーノン
ああ、そんなところだ？

サロメ
誰と？ まさかあの執事？

レイン
そうなの？

メリマンがやってくる。

メリマン
ハイヤーが参りました。

間

メリマン あの、何か？

サロメ 悪くない。

メリマン は？

サロメ じゃあ、レイン、行くわよ。

レイン うん、(ジャックに) 僕はいない方がいいんだよね。

ジャック そんなことはない……、でも、今日は帰ってくれるとたすかる。大変たすかる。

レイン わかった。じゃあ、また。東京で。

ジャック ああ。東京で。

レイン 行こう、サロメ。

サロメ それじゃ、ごきげんよう。

二人とメリマン、退場していく。

サロメ このあたりにおすすめの観光スポットはなくて？

メリマン そうですね。こんにやく。パークなどはいかがでしょう。

サロメ いいわね。

メリマン こんにやくしかありませんが。

ジャック ハイヤーをもう一台だ。

メリマン かしこまりました。

三人、退場。

ジャック アルジャーノン、ここでバンベリーするのはやめてくれ。ハイヤーが来たらすぐに帰るんだ。

アルジャーノン 親友が喪に服しているのに放っておくわけにはいかない。

ジャック それじゃ着替えたら帰るんだな？ よし、待ってる、すぐ戻る。

ジャック、退場。

アルジャーノン、一人いる。

セシリーがやってくる。

セシリー おじ様は？

アルジャーノン 着替えに行った。

セシリー 当然よね、あなたは生きているんですもの。アーネスト。会えてうれしいわ。
アルジャーノン 僕もだ。でも、兄にすぐ帰れと言われた。

セシリー もうお別れなの？

アルジャーノン 残念ながら。

セシリー なんてつらいんでしょう。

アルジャーノン ああ、セシリー、僕もだ。

メリマン、登場。

メリマン ハイヤーが参りました。

セシリー あと5分だけ待たせておいて！

アルジャーノン セシリー！

メリマン 承知しました。

メリマン、退場。

アルジャーノン 君はすばらしい。

セシリー まあ、うれしい。今の言葉を日記に書いておかなくちゃ。

アルジャーノン 君の日記を読ませてほしいな。

セシリー ブログで公開しているから、どうぞご覧になって。見つけることができたらの話だけれど。

アルジャーノン ああ、やってみる！

アルジャーノン、スマホで検索を始める。

アルジャーノン 検索のヒントがほしい。

セシリー 私は乙女の心の声を綴ってるの。いずれ書籍化したいと思っているから出版されたら注文して読んでね。

アルジャーノン もちろんだとも。セシリー。僕は君をひと目見て、恋に落ちてしまった。この恋は激しく情熱的で、お先真っ暗だ。

セシリー 激しく情熱的なのは良いけれど、お先真っ暗には賛成できないわ。

アルジャーノン セシリー……！！

メリマン (登場して) ハイヤーが待っています。

アルジャーノン 出発は1週間後だ……！！

メリマン 承知しました。

メリマン、退場。

セシリー おじ様が知ったら、お怒りになるわ。

アルジャーノン かまうもんか。大切なのは君だけだ。愛してる。結婚しよう。

セシリー もちろんよ。

アルジャーノン いいのかい？

セシリー ええ、だって、3ヶ月前に婚約したんですもの、

アルジャーノン 3ヶ月前？

セシリー ええ、3ヶ月前。

アルジャーノン それはなぜ？ まだ会ってもいないのにどうやって婚約？

セシリー ジャックおじ様に不良の弟がいると知ったからよ。プリズム先生との話題はあなたのことばかり。噂になる人には魅力があるものでしょ。きつとすてきな人に決まってる。

アルジャーノン 婚約したのは3ヶ月前なんだね？

セシリー 2月22日よ。あなたが私を無視してるから、思い切って決断したの。婚約したのはちょうどこの場所よ。翌日にあなたの代わりにこの指輪を買ったの。このブレスレットも。肌身離さないと約束したわ。

アルジャーノン 僕からの贈り物なんだね。

セシリー そうよ。趣味がいいわね。だから、どんな不良でも許しちゃう。それから、この日記には、あなたからのメールもアップしてるの。

アルジャーノン 君にメールした覚えはないんだけど。

セシリー だから、あなたの分まで私が書いたの。

アルジャーノン 読ませて。

セシリー だめよ。

アルジャーノン だって、僕が書いたんだろう？

セシリー ええ、とてもすてきなメール。婚約解消後に届いた3通は特にすてき。動揺のせいか変換ミスしまくり。今読んでもぐつと来ちゃう。

アルジャーノン 婚約を解消したの？

セシリー ええ、あれは。3月22日のことだったわ。

アルジャーノン なぜ解消を？ 僕が何をしたというんだ？

セシリー だって、一度は解消しないと真剣な婚約とは言えないから。でも、週末には許してたわ。

アルジャーノン やっぱり君は天使だ。もう婚約解消はしないでほしい。

セシリー もうしない。だって、やっと出会えたんだもの。それに名前のこともあるし。

アルジャーノン 名前？

セシリー そうよ、アーネスト。笑わないで聞いて。私、アーネストという名前の人に

恋するのが昔からの夢だったの。アーネスト、その名前を聞くだけで胸が熱くなる。

アルジャーノン　ねえ、セシリー、僕が他の名前だったらだめかな？　例えばアルジャーノンとか。

セシリー　無理。絶対に無理！

アルジャーノン　そんなに嫌がらなくてもいいだろ？　悪くない名前だし、おしゃれだと思わないかい？

セシリー　全然。尊敬はできるかもしれないけど、愛することはできないと思うの。

アルジャーノン　よし、何とかする。

セシリー　どうしたの、アーネスト？

アルジャーノン　ちよつと待ってて。30分ほどで戻るから。

セシリー　アーネスト。私たちは2月22日に婚約をしたわ。そして今日初めて出会った。それなのに、私を30分も置き去りにするなんてひどいわ。20分にして。

アルジャーノン　（出て行きながら）わかった！　すぐに戻るから、待ってて！

セシリー　アーネスト、なんてロマンチック！

セシリー、退場。

チャジュブルの寺。

チャジュブル、居眠りをしている。

ジャックがやってくる。

ジャック　チャジュブル先生！

チャジュブル　（目を覚まして）これは失礼。つい居眠りを。何かご用ですか？

ジャック　先生に名前を新しくしてほしいんです。

チャジュブル　戒名ですか？　まだお若いのに準備のいいことだ。あ、もしや、一度は亡くなった弟さんの戒名でしたか？　南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。

ジャック　そうではないのです。お願いしたいのは、私の今の名前、ジャック・小田原です。

チャジュブル　小田原ですか？　それはいいことかもしれませんが。トーマス・カーデュー氏が思いつきでつけた名字ですから、私も実はどうしたものかと思っていたのです。いや、失礼。それでは、ジャック・前橋ということに。

ジャック　いいえ、そうではないのです。私はジャックを変えたいのです。

チャジュブル　ジャックを？　それはどうして？

ジャック　理由がいりますか？

チャジュブル　失礼ですが、改名には正当な理由が必要です。通称ではなく、戸籍上の名前を変えるのなら家庭裁判所に申請しなくてははいけませんから。理由は必須

です。

ジャック

今のままでは結婚ができないのです。それは正当な理由にはなりませんか？

チャジユブル

ご結婚を！ それはめでたい。ですが、結婚したら名前は変わりますよ。あ、選択的夫婦別姓をお望みとか？ いやいや、まだ夫婦別姓は認められていないのでしたな。

ジャック

ですから、姓ではなく、私を変えたいのは名前だと何度言ったら……

チャジユブル

失礼しました。わかっておりますよ。それでは、前橋家庭裁判所に申請しましょう。

ジャック

ありがとうございます。いつになりますか？

チャジユブル

今日は日曜、明日朝いちで出かけます。

ジャック

たすかります。

チャジユブル

一、二ヶ月すれば無事手続きが終わるでしょう。

ジャック

そんなに待てません。ここはひとつ、チャジユブル先生の顔でなんとかありませんか？ 退職されてからも、前橋の司法関係には顔が広いと聞いています。

チャジユブル

いやそれほどでは……

ジャック

北関東にチャジユブルありとも。

チャジユブル

まあ、そのように言ってくれる方もおりますな。南無阿弥陀仏。

ジャック

お願いします。

チャジユブル

わかりました。即日審理ができるようなんとかしてみましょう。

ジャック

たすかります。これでよし！

チャジユブル

それにしても、今日は同じような依頼が多い日だ。実を言うと、他にもう一件、急ぎの改名手続の依頼を受けているのです

ジャック

もう一件？ 誰です？

チャジユブル

あなたの弟アーネストさんです。よくわからないのですが、アーネストさんがアーネストになりたいとおっしゃる。

ジャック

改名の理由は？

チャジユブル

ああ、あの方も結婚のためとおっしゃっていましたな。

ジャック

誰とです？

チャジユブル

さあ、そこまでは……

ジャック

ありがとうございます。チャジユブル先生。それでは、くれぐれもよろしく

チャジユブル

おまかせあれ！ 南無阿弥陀仏。

ジャック、出て行く。

場面変わる。
ジャックの屋敷の庭。
アルジャーノンが歩いている。
ジャックが追いつく。

ジャック 帰ったんじゃないのか？

アルジャーノン ああ、悪いがもう少しさせてもらおうことにした。

ジャック 結婚のためか？

アルジャーノン なぜそれを？

ジャック チャジュブルさんから聞いた。結婚のために名前を変えるそうだな。相手は誰だ？ メリマンか？ くだいようだが、おれの屋敷でバンベリーするな。

アルジャーノン いい機会だから、言っておこう、ぼくが結婚したいのはセシリーだ。

ジャック セシリーと！？

アルジャーノン 反対されるのはわかっている。僕も自分の気持ちが変わらない。どうしてこんなことになったのか。きみがグエンドレンと結婚することをあれほど反対した僕が、その舌の根も乾かないうちに、十八歳の少女と結婚したいと思うだなんて。

ジャック 許せるわけがないだろう。おれはセシリーの後見人だ。

アルジャーノン 君の許可など必要ない。

ジャック 絶対に許さない。アルジャーノン、悪いことは言わない。やめろ。諦めてくれ。

アルジャーノン 僕はきみとは違うんだ。君は男の恋人がいながら、グエンドレンと結婚する。昔の作家が言っていた。「結婚は二人より三人の方がうまくいく」。それをやろうというんだろう。だが、僕はセシリーだけを愛して結婚したいんだ。

ジャック アルジャーノン……

グリズビーがやってくる。

グリズビー 失礼ですが、こちらは、小田原様のお屋敷で？

ジャック ああ、そうだが。

グリズビー 弁護士グリズビーといます。こちらにアルジャーノン・モンクリーフ様が滞在中と伺ってまいったのですが。

アルジャーノン・モンクリーフは僕だ。何の用だい？

グリズビー それでは、取り急ぎお知らせすることが。あなたに対する差押令状が出ています。新宿二丁目界隈と、その他、高級レストラン、クラブなどにおいて未払い金が1200万円ほどあります。依頼人の意向としては、お支払いいただけない場合、身柄を引き渡すようにとのことですよ。

アルジャーノン 身柄を引き渡すだって？

グリズビー 六ヶ月ほど。

アルジャーノン 六ヶ月？

グリズビー 払った方がよろしいですよ。

アルジャーノン 払う？ 紳士というのは余計な金を持たないんだ。払えるものか。

ジャック 1200万円だって？ 二丁目界隈でそんなに金を使ったら、店が一軒買えるくらいだ。何でそんなに使ったんだ。

アルジャーノン 金というのは気をつけていないとすぐにどこかに出かけていってしまふ。聞き分けのない子どもと同じだ。

グリズビー 申し訳ないのですが、時間がありません。収監手続きのため、4時までには前橋刑務所に行かなくてはなりませんので。

アルジャーノン 前橋刑務所。

グリズビー 北関東でもっとも古い歴史的建造物。収監でなく、見学に行ったらさぞ楽しいことでしょうが。

アルジャーノン 断る。僕はそんなところへは行かない。

グリズビー そうですか……、それならまた別の対応をさせていただくことになりますがよろしいですか？

ジャック 他の方法があるのか？

グリズビー これは、法的には認められていないことではあるのですが、アルジャーノン様が、その……ゲイであると、男性同性愛者、いわゆる、ホモ、オカマと呼ばれる属性の方であると、世間に知らしめることになります。

アルジャーノン なんだと？

グリズビー 世に言う、アウトティングというやつですな。これはほんとうに最後の手段で、ひどい仕打ちだとは思いますが。そのせいで世をはかなくて亡くなられた方もいると聞きます。私どもとしては、そんなことはしたくないのです。

アルジャーノン やれるもんならやってみろ。ぼくには、そんなことなんでもない。

グリズビー ほんとうによろしいのですか？

アルジャーノン ああ、かまうものか。

グリズビー 素直に払うか、刑務所へ行くか、どちらかになさいませんか？ ファイナルアンサー。

アルジャーノン ファイナルアンサー。どちらもお断りだ！

グリズビー ……！

ジャック 待て、その借金、僕が払おう。

アルジャーノン 払うことない。

ジャック アルジャーノンは病気で伏せている友人のバンベリーくんのところへ行かなければならないのです。そうだな？

アルジャーノン ……。

ジャック
グリズビーさん、小切手を切ります。屋敷に行つて、執事のメリマンに伝えてください。私もすぐに戻ると。

グリズビー
わかりました。美しい友情だ。それでは、お先に失礼します。

グリズビー、退場。

ジャック
それじゃ、さよならだ。バンベリーくんによろしく。

ジャック、退場。

続いて、アルジャーノンも。

場面はジャックの屋敷の庭の別の場所。

セシリーがいる。

メリマンがやってくる。

メリマン
フェアファックス様という女性がが旦那様にお会いしたいそうです。とても大事な用があるとのことですよ。

セシリー
おじ様は、チャジュブルゴ住職のお寺じゃないかしら？ まだお戻りにならないようね。

メリマン
いかがいたしましたよう。

セシリー
いいわ。私が会うことにする。お通しして。

メリマン
かしこまりました。

メリマン退場。

セシリー
フェアファックスさん。きっと東京でおじ様がお世話をしているおばあさんだわ。

グウェンドレン、メリマン、登場。

メリマン
フェアファックス様です。

セシリー
フェアファックス様、どうもはじめまして。私、セシリー・カーデューと申します。

グウェンドレン
はじめまして、グウェンドレン・フェアファックスです。

セシリー
おじ様は今留守ですけど、すぐに来ますわ。メリマン、お茶の用意を。

メリマン
かしこまりました。

メリマン、退場。

グウェンドレン
セシリー・カーデュー。なんて可愛らしい名前でしょう。私たち仲良くなれ

そんな気がしますわ。だって一目で大好きになりましたもの。

セシリー　まあ、うれしい。私もですわ。

グエンドレン　私の第一印象は大概当たりますの。こちらにはたまたま滞在されているんでしょうね？

セシリー　いいえ、住んでますの。

グウエンドレン　まあ、そうですね。それは、お母様か年上の女性の親戚とご一緒ということね。

セシリー　いいえ、私、母も親戚もおりませんわ。でも、立派な後見人がお世話をしてくれていますの。

グウエンドレン　後見人？

セシリー　はい。私のおじ様です。

グウエンドレン　まあ、それは初耳。(独り言)でも、あの方には秘密がたくさんあってそこが魅力なんですもの、知れば知るほど興味深いわ。

セシリー　どうかなさいまして？

グエンドレン　いえ、なんでもありません。あの方が、あなたのような方の後見人だったなんて驚いていますの。正直に言わせてもらおうと、できればあなたの年齢がもっと上なら良かったと思いましたわ。それから、もっと魅力がない方なら良かったのにと。

セシリー　……。

グウエンドレン　ごめんあそばせ。つい率直な物言いになってしまつて。

セシリー　どうぞお気遣いなく。話しにくいことほど、正直に話す必要があるのじゃありませんこと？

グエンドレン　そうですね。それでははっきり言わせていただきますわ。あなたが少なくとも四十二歳で、見た目も大したことのない方ならよかつたのに。だって、アーネストはとっても素直な方じゃありませんか。真実と名誉を何よりも大事にする立派な方。

セシリー　あら、私の後見人はアーネストじゃありませんわ。彼のお兄様がそうです。

グウエンドレン　あー、そういうことでしたの。セシリー、それを聞いて心が軽くなつたわ。ちょっと心配になつたものだから。つまり、あなたの後見人はアーネストではないということね。

セシリー　もちろんよ。だって彼とは結婚するんですもの。

短い間

グウエンドレン　ちよつと待つて。なんですつて？

セシリー　アーネストと私は約束していますの。結婚の約束を。

長い間

グウェンドレン そうなの。セシリー、失礼だけど、ちょっと行き違いがあるようね。アーネストは私と婚約したわ。今度の土曜にはニュースになっているはずなの。

セシリー そちらこそ勘違いされてるんじゃないやありません。アーネストは十分前にプロポーズしたのよ、私に。

グウェンドレン あら、でもどういうことかしら。私は彼に妻になってほしいと昨日の午後五時半に申し込まれたのに。あなたのスマホを見せて9いただける？（セシリーのスマホを操作して見せる）私がつけているウエブ日記。

セシリー （見て）まあ、ほんとに。なんてことかしら……

グウェンドレン （ほほえんで）ごめんなさいね、セシリー。先着順では私が先ね。

セシリー つらいことを伝えるのは心苦しいのだけれど、伝えるべきことはきちんと伝えなきゃね。彼は、昨日、あなたにプロポーズしてから、心変わりをしたのよ。

グウェンドレン いいえ、あの人はあなたに騙されて約束させられたのよ。彼を救い出すのは私の役目だわ。

セシリー いいえ、きつと、あの人は騙されて、ひどい災難にあったよ。なんて気の毒なんでしょう。

グウェンドレン もしかして、災難とは私のことをおっしゃってるの？

セシリー ええ。もちろん。

グウェンドレン 言いたい放題がちよっとすぎませんか？ そちらがそこまでおっしゃるなら、こちらだって負けてませんわ。

セシリー 私が彼をだましたとおっしゃるの？ なんて失礼なんでしょう。レディの仮面をお外しになったらいかがかしら？ ごめんなさい、それお化粧でしたわね。

グウェンドレン 今の言葉そっくりそのままお返しするわ。

セシリー こちらこそだわ。

グウェンドレン・セシリー ふん！！

メリマン、登場。お茶の支度を持って。
以降、メリマンはお茶の支度を手にして控えている。
顔を背けあっていた二人、メリマンの手前、うそっぽいやりとりを始め

グウェンドレン ご近所にすてきな散歩道はありませんか？

セシリー ええ、いっぱいありますわ。丘の上からは五つの村が見えます。

グウェンドレン まあ村が五つも？ 私、ついぞ「村」というものを見たことはありませんの。それっておいしいのかしら？

セシリー お茶でもいかが、フェアファックス様。

グウェンドレン いただきますわ、カーデュー様。

セシリー お砂糖は？

グウェンドレン いりません。だって砂糖は時代遅れですもの。

セシリー ケーキかパンはいかが？

グウェンドレン どちらも結構。糖質制限とグルテンフリーは東京では最新の流行なんですからね。このあたりには、まだ届いていない流行かもしれませんけど。

セシリー、グウェンドレンのカップに角砂糖を山ほど入れる。

セシリー どうぞ。

グウェンドレン ありがとうございます。

グウェンドレン、一口飲んでむせる。
平和を装ったやりとりは終わる。

グウェンドレン 砂糖を入れたわね。いらないと言ったのに！

セシリー あら、そうでしたかしら？

グウェンドレン 初めて見た時からあなたのことは信用できないと思ってたわ。大嘘つきだって。

セシリー どうやらあなたの貴重なお時間を無駄にしてみましたよね。いろいろお気に召さないようですから、とっととしっぽを巻いてお帰りになったらいかがかしら？

グウェンドレン いいえ、それこそ大きなお世話ですわ。

二人にらみあっている。

アルジャーノンがやってくる。

セシリーが見つけて、

セシリー ああ、アーネスト。おかえりなさい。

アルジャーノン 会いたかった。

セシリー ねえ、アーネスト、ちょっと質問があるの。あなたはあそこにいる女性と婚約をされていて？

アルジャーノン どの女性？ まさかグウェンドレン？

セシリー そうよ、グウェンドレンと。

アルジャーノン 婚約なんかするわけないだろう。どうしてそんなこと考えたんだ？

セシリー よかった。

グウェンドレン やっぱり何か行き違いがあるようね。今あなたの目の前にいるのは、私のいとこよ。名前はアルジャーノン・モンククリーフ。

セシリー アルジャーノン？ モンクリーフ？ そうなの？
アルジャーノン ああ。そうだ。

セシリー、身を引く。

ジャック グェンドレン！

グウェンドレン まあ、アーネストが来たわ。私のアーネスト！！

ジャックがやってくる。

ジャック グウェンドレン、よく来てくれたね！

グェンドレン アーネスト……！！

セシリー (咳払い) そちらにも誤解があるようね、フェアファックス様。あなたの目の前にいるのは私の後見人ジャック・小田原様よ。

グウェンドレン (身を引いて) 何ですって？ ジャック？ ジャック？

ジャックとアルジャーノン、顔を見合わせる。

セシリー (アルジャーノンに) 答えてちょうだい。あなたはアルジャーノンなの？

アルジャーノン ……否定はできない。

グウェンドレン (ジャックに) 答えてくださる？ ジャックが本当の名前なの？

ジャック ……できれば否定したい。否定したいが、確かに私の名前はジャックです。

間

セシリー 私たち二人ともひどい詐欺にあっていたのね。

グウェンドレン かわいそうなセシリー、傷ついたでしょ。

セシリー グェンドレン、あなたこそ……

グウェンドレン セシリー、私のことは姉と呼んでいいのよ？

セシリー もちろんですわ、お姉様！

グェンドレン かわいい妹。

二人、抱きあう。

二人そろってジャックとアルジャーノンに向き合う。

グェンドレン (ジャックに) お聞きしたいことがあります。真剣にお答えになつて。

セシリー (アルジャーノンに) 私も伺いたいわ。真剣に答えて。なぜアーネストになりしまったの？

アルジャーノン 君に会いたかったからに決まってる。

セシリー ぐっとくる答えだわ。

グエンドレン セシリー、彼の言葉を信じるの？（ジャックに）アーネストという弟をでっち上げた理由は？ 彼を口実に東京に来て私と会うため？

ジャック もちろんだとも。

グエンドレン ぐっとくる答えだわ。いいわ。今のところは信じることにしましょう。2人の答えには真実味があるもの。特に彼。

セシリー 彼だって。

グエンドレン 許すことにする？

セシリー そうね……、いいえ、まだだめよ！

グエンドレン やだ、忘れるところだった。絶対に譲れない問題があったわね。

セシリー ええ、あぶなかったわ。

グエンドレン それでは、声をそろえて言ってあげましょう。いい？ セーの！

セシリー・グエンドレン あなたの名前が許せないの！

間

ジャック なんだそんなことか。それならご心配なく。僕は名前を変える。

グエンドレン まあ！

アルジャーノン 僕もだ。

セシリー そんなことまでしてくださるの？

アルジャーノン 君が望むことならどんなことだってする。

ジャック 美しいバラを別の名前でも呼んでもバラの美しさにかわりはないと誰かが言っていた。別の名がいいと言うなら僕はいくらでも名を変えよう。君を愛する気持ちにかわりはないのだから。

グエンドレン （ため息） ああ……

セシリー あなたも私のために？

アルジャーノン そうだよ。僕のいのち！

セシリー （ため息） ああ……

二組のカップル抱きあふ。

ブラックネルがやってくる。

ブラックネル グウエンドレン。なんてこと。離れなさい。

グエンドレン お母様、私、この方と結婚します！

ブラックネル こちらに来なさい。グエンドレン！ 結婚は許しません。私がダメと言った

らダメなのです。

ジャック 私はグエンドレンと結婚の約束をしました。

ブラックネル 身の程を知りなさい。それから、アルジー？ 病弱なバンベリーさんはお屋敷にいるのかしら？

アルジャーノン いえバンベリーはここにはいません。死にました。

ブラックネル 死んだ？ それはいつ？

アルジャーノン 今日の昼過ぎに殺し……いえ、亡くなったのです。

ブラックネル 死因は？

アルジャーノン 爆発したのです。

ブラックネル 爆発したですって？ 暴動にでも巻き込まれたの？

アルジャーノン そんなところです。

ブラックネル お気の毒なバンベリーさんのことはどうでもいいわ。(ジャックに) ところで、あの娘さんはどなた？

ジャック セシリー・カーデュー、僕が後見人です。

アルジャーノン 僕たちは婚約しました。

ブラックネル なんですって？

アルジャーノン モンクリーフ様と私は婚約しましたの。

ブラックネル いくつか質問をしてもいいかしら。こちらのお嬢さんも新宿駅と関係があるのかしら？

ジャック 彼女はトーマス・カーデュー氏の孫娘です。この屋敷もゆくゆくは彼女のものになります。

ブラックネル 拝見したところ、田舎のなかの田舎と言ってさしつかえない土地柄ですわね。

ジャック それは否定できませんが……

ブラックネル グエンドレン、長居しすぎたようね。もう失礼しましょう。これは形式的な質問ですが、セシリーさんに財産はありますか？

ジャック ほんの200億円ほどですが、彼女の財産はそれだけです。それでは、お引き取りください。

ブラックネル (立ち止まって振り返る) お待ちになって。200億円とおっしゃったわね。(セシリーを見ながら) よく見ると、とても魅力的なお嬢さんね。近頃の若い女性にしてはめずらしい。こちらにいらして。

セシリー はい。

ブラックネル 今のままでもとても美しいけれど、磨き上げれば社交界でも立派に通用するわね。

アルジャーノン セシリーは世界一愛らしい女性だ。社交界なんてどうでもいい。

ブラックネル 社交界の悪口はいけません。それは入れない人のひがみですよ。(セシリーに) アルジーには借金以外何もないことはご存知ね？ 財産目当ての結婚は

反対です。この私も財産はなかったけれど、主人との結婚を諦めることはしませんでした。しかたありません。2人の結婚を認めることにしましょう。

アルジャーノン おば様。

ブラックネル これからは私をおばと呼んでちょうだい。

セシリー はい、オーガスタおば様。

ブラックネル 式は早いほうがいいわね

アルジャーノン ありがとう。おば様。

ブラックネル 結婚期間が長いには反対です。結婚前にお互いの性格がわかってしまうところくなことがありませんから。

ジャック 口を挟むようですが、この婚約は無効です。結婚には後見人である僕の承諾が必要ですから。私は断固として認めません。

ブラックネル なぜですか？ 甥のアルジーは、申し分のない結婚相手ですわ。財産はありませんけど。

ジャック この際、はつきり申し上げます。彼は詐欺師です。

ブラックネル 私の甥を詐欺師だと言うの？

ジャック ええ、そうです。僕は愛する人に会うため、東京に行き留守にしました。その隙に、彼は僕の弟だと偽り屋敷に入り込みました。許せないのは、彼には僕がいないと知っていたことです。僕は今後も弟を持つ気などない。

ブラックネル 小田原様、お話を伺ってよく考えてみました。甥のあなたに対する行動を不問に付します。

ジャック それは寛大なことだ。しかし、結論は変わりません。結婚は認めません。

ブラックネル セシリー、あなたはいくつ？

セシリー 18歳ですけど、夜遊びの時は20歳ですの。

ブラックネル 年齢を偽るのは良いことです。レディは本当の年齢を明かしてはなりません。18歳ならもう成人。後見人の承諾など必要ないでしょう。

ジャック 彼女の祖父の遺言で、35歳まで法的に成人の資格が与えられません。

ブラックネル 問題ありません。35歳と言えば女盛りです。社交界には何年も35歳のままの女性が大勢います。それに、セシリーが35歳になる頃には、今よりもっと魅力的になっていくはずですよ。ぐっと資産も増えているでしょうし。

セシリー 35歳まで待つてくれる？

アルジャーノン 決まってるだろ。

セシリー ありがとう。でも、私は待てない。

アルジャーノン セシリー！

ブラックネル セシリーは35歳まで待てないと言っています。若さゆえの早急さをあなたは広い心で認めなくてははいけませんことよ。

ジャック それは、あなたのお答え次第です。グェンドレンとの結婚を認めてください

ば、考え直してもいいでしょう。それでも、結婚にはまだまだ障害があるでしょうが……

ブラックネル
話になりませんわね。アルジー、好きになさい。グエンドレン、私たちは帰りますよ。車を呼んでちょうだい。

チャジュブルがやってくる。

チャジュブル
二人ともこちらでしたか。名前を変える手続きのための書類を作成しました。ご確認くださいね。

ブラックネル
名前を変えるですって？ アルジー、そんなことは許しませんよ。もつてのほかです。

チャジュブル
では、改名手続きはキャンセルでしょうか？

ジャック
そうせざるをえないようです。

チャジュブル
それでは、私は失礼しましょう。寺でプリズム先生をお待たせしているので。

ブラックネル
プリズム先生？ 今プリズムとおっしゃって？

チャジュブル
ええ、今から会いに行きます。

ブラックネル
お待ちになって。もしやその女は、ぱっとしない顔をした中年女性で、教育に関わっていたりしませんこと？

チャジュブル
ええ、プリズム先生は、独特の美德を備えた、教養のある優れた果物、いえ女性です。

ブラックネル
どうやら本人に間違いないようね。その人はこちらでは何をしていますの？

ジャック
三年前からセシリーの家庭教師です。

ブラックネル
今すぐ会います。こちらへよこしなさい。

チャジュブル
ああ、あちらからいらっしやいました。

プリズム、やってくる。

プリズム
チャジュブルご住職、私をお待ちだと聞いてまいりました。お寺で1時間45分もお待ちしましたのよ。

チャジュブル
それはもうしわけないことをしました。

プリズム
いいえ、いいんですよ。

ブラックネル
プリズム！

プリズム
(ブラックネル卿夫人を見ておののく) 奥様！

ブラックネル
こちらへ。あの赤ん坊はどこ？ あなたは34年前、ブラックネル卿の屋敷

から乳母車に乗せた男の赤ん坊を連れ去った。それっきり屋敷に戻ることはなかった。数週間後、乳母車だけが発見されたわ。真夜中に西新宿の裏道で。乳母車の中には二次創作のBL小説の原稿。そして、赤ん坊は消えていた。プリズム、赤ん坊はどこ？ 赤ん坊はどこなのか言うのです。

プリズム

実は私も知らないのです。本当です。包み隠さず申し上げます。あの日のことは忘れようにも忘れられません。いつものように赤ん坊を乳母車に乗せ、大きなカバンを手にしていました。書きためていた小説の原稿をカバンに入れるつもりだったのです。自分でも何が起きたのかわかりません。私は原稿を乳母車に入れ、赤ん坊をカバンに入れてしまったのです。

ジャック
カバンはどこに？

プリズム
どうか聞かないで。

ジャック
重要なことなんです。どこに置いたのですか？

プリズム
東京のとある駅の荷物預かり所です。

ジャック
どこの駅ですか？

プリズム
新宿駅……

ジャック
小田急線？

プリズム
小田急小田原線です。

ジャック
すぐ戻ります。

ジャック退場して、すぐに戻ってくる。大きなカバンを手にしている。

ジャック
そのカバンというのはこれですか？ よく見て答えてください。

プリズム
まあ、よく似ているわ。あら、これは山手線のドアに挟まれたときの傷だわ。ここに私のイニシャルがある。調子に乗って入れちゃったのよ。確かに私のカバンです。まさか戻ってくるなんて。これがなくてずっと不便だったわ。

ジャック
プリズム先生、もう一つの再会があります。僕がああ赤ん坊なのです。

プリズム
あなたが？

ジャック
そうです。おかあさん！！

ジャック、プリズムに抱きつく。

プリズム
おやめになつて！ 私は独身です！

ジャック
未婚の母だったんですね。僕は気にしません。世間が何と言おうと僕は許します。

プリズム
だんな様、勘違いですわ。真実はあちらの方がご存知です。

ジャック
ブラックネル夫人が？

プリズム
ええ！

ジャック
僕は、僕はあなたから生まれたのですか？！

ブラックネル
いいえ、ちがいます。

ジャック
では、誰が僕を？ お願いです。僕が誰なのか教えてください。

間

ブラックネル あなたは私の妹モンクリーフ卿夫人の長男、つまりアルジャーノンの兄です。
ジャック アルジールの兄？

ブラックネル ええ、そうです。あなたたちは兄弟だったのです。
ジャック 前から弟がいると思っていたんだ。セシリー、僕に弟がいた。チャジュブル先生、僕の弟です。グウエンドレン、弟だ。アルジー、僕は君の兄だったんだ！

ジャックとアルジャーノン抱きあうが、すぐに離れる。

アルジャーノン 今までのことは全部忘れるよう努力するよ。兄さん。

ジャック ああ、僕もだ。

グエンドレン 今度のあなたはなんていう名前？

ジャック まだ名前が重要なのかい。

グエンドレン ええ、その点だけは譲れませんわ。絶対に。

ジャック それじゃ、さっさと解決しよう。(ブラックネル卿夫人に)カバンに入れられる前、僕はなんと呼ばれていましたか？

ブラックネル え？

ジャック 僕の名前です。あなたはご存知でしょう？

ブラックネル さあ、なんだったかしら？ 何しろ大昔のことだから。

ジャック アルジー、おぼえてないか？

アルジャーノン 残念だが僕にはわからない。兄がいたなんて聞いたのは初めてなんだからな。父も母も悲しみに沈んで、消えた子どもはなかったことにしていたんだろう。そして、誰にも語らず僕が一歳のときに亡くなってしまった。二人とも。

ジャック なんてことだ。誰も知らないのか？ 僕の名前を。

メリマンがやってくる。

メリマン (ジャックに) あなたの名前は私が知っています。

一同 ええ？

ジャック どういうことだ、メリマン？

メリマン モンクリーフ卿の話聞いて、今こそ、お話しするべき時が来たのだと知りました。

ブラックネル あなたは、モンクリーフ卿、この二人の父親のことを知っているというの？

メリマン はい。

ブラックネル それはいったいどうして？

メリマン
ブラックネル
お付き合いは、モンクリーフ卿とお付き合いをしていました。

メリマン
ええ、奥様のいるモンクリーフ卿の、私は恋人だったのです。

女性たち
まあ……！

男たち
なんということだ。

メリマン
あの頃は、男同士付き合っても、女性と偽装結婚をするのが当たりまえでした。モンクリーフ卿も例外ではありませんでした。ですが、お子様が生まれたのを機に私たちは別れることとなったのです。

ブラックネル
そんなドラマ化されたBL小説のようなことがあつてたまるものですか。

メリマン
真実です。

ジャック
証拠は？ 証拠はあるのですか？

メリマン
ここに手紙があります。モンクリーフ卿が私に宛てて書かれた手紙です。子どもが生まれたことを知らせてくれたのです。どうぞご覧ください。

メリマン、封筒をジャックに渡す。

ジャック
（手紙をとり出して読む）愛しいメリマン。元気にしているか。僕は元気だ。妻が先日、子どもを産んだ。男の子だ。考えに考えて名前をつけた。彼の名前は……

グエンドレン
彼の名前は……？

ジャック
彼の名前は、アーネスト。僕の好きな作家の名前からとった。これから、僕は、妻とアーネストとともに生きていく。メリマン、君に送る手紙はこれが最後だ。元気で暮らしてほしい。変わらず君を愛している。

間

男たち
アーネスト……

女たち
アーネスト……

チャジュブル
改名の必要はなくなりましたな。

アーネスト
ああ、そういうことだ。（以下、再びアーネストと表記）

グエンドレン
アーネスト！

アーネスト
グエンドレン！

二人抱きあう。

セシリー
あなたは名前を変えてくださるわね。

アルジャーノン
もちろんだとも。

セシリー
うれしい。

アルジャーノン
結婚しよう。
セシリー
よろこんで。

二人抱きあう。

チャジュブル
すべてが丸くおさまったということですか。南無阿弥陀仏。
アーネスト
そのことなんですが……
チャジュブル
まだ何か問題があるのでしょうか？
アーネスト
ええ、そうなんです。だって、セシリーは……

マーガレットがやってくる。

マーガレット
お取り込み中のところ、失礼。こちらはトーマス・カーデュー氏のお屋敷で
間違いないかしら。

アーネスト
ええ。そうですが、あなたは？

マーガレット
こちらに預けられた子の母、マーガレットです。

アーネスト
預けられた子？ それでは、あなたはセシリーの？

マーガレット
セシリーはあの子が好きな呼び名でした。本当の名はセシル。私の一人息子
です。今はどこにいます？ 夫が亡くなりセシルと二人きりになった私は、
義理の父トーマス・カーデュー氏に再婚を勧められました。セシルと別れる
のはつらかったけれど、かならず立派に育てると約束してくれたので、私
はセシルをこの屋敷に預けることにしたのです。元気でいればもう十八歳。
すっかり大人になったセシルに一目会いたいとこちらに伺いました。

セシリー、マーガレットに近づく。

セシリー
お母様……

マーガレット
まあ、なんてきれいなお嬢さんでしょう。でも、ごめんなさい。私が生んだ
のは男の子だったはず。

セシリー
私はセシリー。本当の名前はセシルです。生まれたときは男の子、でも女の
子として育ったのです。

マーガレット
まあ、なんてことでしょう。

間

マーガレット
なんてすてき、なんてすばらしいのかしら。セシリー、会えてうれしいわ。
セシリー
お母様！ 私も！！

二人、抱きあう。

チャジュブル
アーネスト
お待ちください。旦那様が言っていたのはこのことですか？
ええ、そうです。

チャジュブル
アーネスト
セシリーが男の子だったとは。なるほど、結婚はできないはずだ。
そうなんです。

チャジュブル
プリズム
ここ群馬県だけでなく、日本全国で同性婚は認められていませんからな。
裁判がすすんでいるわけではありませんの？

チャジュブル
グエンドレン
判決が出て、認められるのは、まだずっと先のことでしょう。
わからずやが多いのね。

マーガレット
私はずっとアメリカで暮らしていましたが、同性同士の夫婦なんてあたり
まえ。女性二人、男性二人で子どもを育てている家族もたくさん見ました。

アーネスト
でも、今の日本では二人は結婚できない。これはどうしようもない現実なん
だ。

間

セシリー
アルジャーノン、今は法律で認められない同性婚、でも、私が三十五歳にな
る頃には、きっと結婚できるようになっているでしょう。

アルジャーノン
僕は待っているよ。いつまでも。

セシリー
でも、なんて遠いんでしょう。三十五歳なんて。おばあさんになってしま
うわ。

アルジャーノン
かまうものか。ぼくもおじいさんになるんだから。

セシリー
そうね。でも、悲しいわ。

アルジャーノン
セシリー……。

セシリー、アルジャーノンの胸で泣く。
サロメとレインがやってくる。

サロメ
ニュースよ、ニュース！

アーネスト
どうしたんだ、サロメ。温泉に行ったんじゃないのか？

サロメ
それどころじゃないの、前橋の駅前で号外を配っていたのよ。（号外を示し
て）「同性婚裁判、原告勝訴」

アーネスト
なんだって？

セシリー
ほんとうなの？

アルジャーノン
信じていいのか？

サロメ
ネットニュースを見てみたら？

一同、スマホで確認する。

グエンドレン まあ、ほんとうに。

セシリー ほんとうだわ。

アルジャーノン これでぼくたちは結婚ができる。セシリー、僕と結婚してほしい。

セシリー ええ、よろこんで。

グエンドレン アーネスト、私たちも。

アーネスト ああ、グエンドレン。でも、ぼくたちは同性婚じゃないよね。

グエンドレン ふふふ……

アーネスト そうなのか？

ブラックネル 細かいことを気にしてはいけません。すべて丸く収まったのですから。

アーネスト いや、すべてじゃありません。レイン、僕はグエンドレンと結婚する。レイ

ンとつきあい続けるために結婚する、そのつもりだったのだが、僕はグエンドレンを愛してしまった。

レイン わかっている。

アーネスト すまない。

レイン 気にしなくていいよ。僕も他に付き合う相手がありましたし。

アーネスト え？

レイン さっきナイモンでハウリングしたらマッチングしたんで、これからリアルするんだ。同性婚も認められたことだし、ちゃんと付き合ってみようかと思っ
て。さっきメッセージが来たから、ここに呼んじやった。あ、来た来た！

グリズビーがやって来る。

アーネスト グリズビー、お前もか？！

グリズビー だから、何？！

アーネスト いや、なんでもない。レイン、幸せを祈ってる。

レイン ありがとう、アーネスト。僕もだ！

チャジュブル プリズム先生、私も勇気を出して、あなたにお伝えします。結婚していただ
けませんか。

プリズム ずっと待っていました、その言葉。

チャジュブル それではプリズム先生、お受けいただけるのですか？

プリズム 私の名はヤスミーナですわ。

チャジュブル 私は一休と申します。

プリズム 一休さん！

チャジュブル ヤスミーナ！！

プリズム・チャジュブル 南無阿弥陀仏！

しあわせそうなカップルがいくつも。

サロメ

みんな結婚するのね。せいぜい幸せになるといわ。

アーネスト

ああ、幸せになってやるとも。

グエンドレン

ええ。

セシリー

アルジー、踊りましょう！

アルジャーノン

ミュージックスタート！

にぎやかな音楽。

一同、自由に踊り始める。

ブラックネル

ストップ！

音楽止まる。

ブラックネル

なんです、はしたない。騒ぎすぎです。あなたは私の甥なのですから、もっと真面目になさい。アーネスト！

アーネスト

ご心配なく、アーネストの意味は真面目、僕たちはちゃんと知ってるんですから。いっだって真面目が肝心なんだってことは。

アーネストが合図をすると、にぎやかな音楽が再び流れ出す。
みんな踊ったり抱きあったりで忙しい。

幕